

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

伊藤和憲、勝見泰和. 高齢者の慢性腰下肢痛に対する鍼治療の効果-トリガーポイント鍼治療の有用性に関する比較試験- 全日本鍼灸学会雑誌 2005; 55(4):530-37. 医中誌 Web ID : 2005296314

1. 目的

高齢者の慢性腰下肢痛に対するトリガーポイント鍼治療の効果の評価

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (quasi-RCT)

3. セッティング

明治国際医療大学附属病院整形外科外来、京都、日本

4. 参加者

腰下肢痛が6ヶ月以上続いている65才以上の高齢者44名。(内8名が脱落)

5. 介入

Arm 1: 経穴への鍼刺激。週1回の3回の治療。

Arm 2: トリガーポイントへの皮下鍼刺激。週1回の3回の治療。

Arm 3: トリガーポイントへの筋鍼刺激。週1回の3回の治療。

Arm 4: シャム鍼刺激。週1回の3回の治療。

6. 主なアウトカム評価項目

腰下肢の痛みをVASで、QOLをRoland Morris Disability Questionnaireで評価。

7. 主な結果

3回の治療後にトリガーポイント筋鍼刺激群のみが痛みとQOLにシャム群と比較して有意な改善がみられた。その効果は治療後3週間においても持続していた。群内比較では、トリガーポイント皮下鍼群もベースラインに比して有意な効果を認めた。

8. 結論

高齢者の慢性腰下肢痛に対してトリガーポイント鍼治療が一つの選択肢になると考えられた。

9. 鍼灸学的考察

従来の経穴への鍼刺激よりもトリガーポイントの筋への鍼刺激効果が高いことは、経穴とトリガーポイントの密接な関連性からみて興味深い成績であるが、特に考察されていない。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は良くデザインされた4群の鍼の臨床試験であり、試験の実施、結果の解析は適切である。トリガーポイントへの鍼刺激が高齢者の慢性腰下肢痛に対し、週1回、計3回の治療で有意な効果をもたらすことを報告している。その一方で、従来の経穴への鍼刺激やトリガーポイントへの浅い鍼は無効であることを示している。シャム鍼(鍼管のみで叩打)のマスキングが出来ていることから、一重マスキングは成功している。今回の評価項目としてVASが使われていたが、その説明にVASの100をこれまで経験した最大の痛みである点、想像しうる最大の痛みとする必要がある。また、群の割り付けに関して封筒法を用いている点も、コンピュータであらかじめ乱数を用意するなどの工夫が必要である。また有害事象についての記載が無いのは残念である。いずれにせよ、このような質の高い研究がさらに増えることが望まれる。

12. Abstractor and date

川喜田健司 2010.12.15